

---

# 奇妙な世界のやり直し

オロチ丸W0632A

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

奇妙な世界のやり直し

### 【Nコード】

N7488D

### 【作者名】

オロチ丸W0632A

### 【あらすじ】

世界に唯一残された男の行く先とは。

**（前書き）**

タイトル通りです。

なんかやつちやった感あります（汗）

ちよつと恥ずかしいかも（苦笑）

それでは、どうぞ！

熱い。

熱い。

熱い熱い熱い！

何が？

体が。体の奥深く、心臓よりも奥深くが。

渴いた。

もちろん、ノドではない。

我<sup>わが</sup>魂が渴いているのだ。

魂の奥深く、無意識よりも奥深く、人間に名前を付けて貰えなかったトコロが渴く。

痛い。

何が痛いか？

全身が。

全身が破裂するように痛い。

全身が破裂するように痛く、体の最も中心は焼け付くほど熱く、名もない魂の奥底は渴いている。

我<sup>われ</sup>は何者なのだろうか。

大昔には人間だったこともあった。

だが、今は人間とは程遠い存在になってしまっている。

愛した者も、憎んだ者も、どちらでもなかった者も、存在さえ知らなかった者も。

今は、子孫が途絶えて久しい。

愛したあの女と我の子も、疾<sup>と</sup>うの昔に子孫を失くした。

今、この壊れた星に残るのは、我、我……。

我は、どういう名だったのだろうか？ 今となっては思い出せぬ。

この苦痛はいつまで続くのだろうか。

全ての感情は行き先を無くし、全ての欲望は叶えられる筈も無い。

やがて、いつの間にか。

痛みが、熱さが、渴きが、消え失せている事に気付いた。

己の体はヒトに戻り、周りには愛する友達ともたちがいた。

そして。

そして、私の腕の中には愛した女が。

否、今でも愛している女が其処そこには居た。

女は我に抱きつき、愛する友達の冷やかしの声が耳に届く。

女の体温は、とても暖かい。女の体は、とても柔らかい。

女との夢のような日々を思い出す。

初めての時の恥じらいの顔を。

求婚した時の嬉しげな顔を。

妊娠を知って溢こぼしたあの優しい顔を。

出産の時の苦しげな顔を。生まれたばかりの息子を抱いて泣いて笑ったあの笑顔を。

息子が嫁を貰った時のあのはしゃぐ様なあの笑顔を。

我が記憶しているのはそこまでだ。その先の女の顔の記憶は無い。

恐らく、息子や孫の方ばかり見ていたのだろう。

だが、覚えている彼女の笑顔は、少しも薄れてはいない。

今、その笑顔が私の腕の中にある。

そして、女に気を取られていると、いつの間にか友達が消え、女と二人っきりになった。

女の我を抱きしめる力が増した。

我が腕の中を見ると、出会った頃のような、絹のような肌を持つ美少女が其処にはいた。

そして我も、女と同じく、若返っていた。

女は言った。鈴の鳴るような優しい声で。

『貴方が犯した罪は重く、償いが今までかかったわ。だけど、償いはもう終わり』だと。

女は続ける。私の瞳を見つめながら。

『ねえ、最後にもう一度抱いてくれないかな？この世界を作り直すために』

不思議と、我にもこれが最後なのだと分かった。頬を赤く染めている女、いや……彼女に、私は答えた。

『良いとも』その一言だけを。

最後に味わう彼女は、とてもよく暴れた。

そして、我も、暴れた。

その内高まっていき、我は種を彼女の中に吐き出す。世界の種を。

我も彼女も息を荒くする中、彼女の中から、一つの光が溢れてきた。

彼女の裸体を包むその光は、我をも包み、その光の中で我と彼女は抱き合い、そして静かに――

キスをした、のだ。

我と彼女は抱きしめあい、お互いの境界が無くなってゆくのが分かった。

こうして我と彼女は、一つの体に二つの心を持つ神となった。名前など我らには不要だ。

我らはこの身が尽きるまでこの星を見守ろう。同じ過ちを繰り返さないために。

我らは世界のときを遡り、さかのぼ原初の世界で願いを祈る。過ちを犯さないように、と。

やがて数え切れない、数えるほうが間違っているような時が過ぎた。

償いをしていた私の魂も、我を信じて待っていてくれた彼女の魂も、既に限界が来ていた。

再び出会うことを誓って、我と彼女は暫しの別れを告げた。

159XX年のとある夏の日、寂れた喫茶店で。

値段の割には不味いコーヒーを飲んでいる青年が居た。

恐らく賞味期限切れのパックコーヒーなんだろうなと思いながら、青年は店内に目をやった。

自分以外には、老店主しかいなかった。

小さくため息をつく、残った不味いコーヒーを一気に飲み干す青年。

老店主に代金を払うと、店を出ようとした、その時。

店に入ってきた客とぶつかって、尻餅をついてしまう青年。

怒鳴ろうとしたが、その客は、どこかで見たことの有るような、美少女だった。

思わず、視線が行ってしまうスカートの中。確認する前に叩かれた……老店主に。

『お客さん、女の子のスカートの中なんぞ、覗くものじゃないぞえ、合意の上で見せてもらうものじゃよ』

変な事を教えてもらったが、なぜ少女は何も言わないのかと疑問に思い、少女の方を向く。少女に見つめられていた。

あれ、おかしいな。そう思いつつも、青年には少女の名前が分かった。それは少女の方も同じだったようで。

青年が少女の名を言うのと同時に、少女は青年の名を言った。そして二人して笑ってしまった。

何故なら、全て思い出したから。

そして、不思議そうに奇妙な顔をしている老店主をほったらかしにして、青年と少女は店を出る。

そして、どちらからともなく手を握り合い、同じ過ちを繰り返さない為に歩き出した。

その道のりは厳しいだろうが、青年と少女にとっては何でもなかった。

何故なら、魂の底から愛し合っている人が、隣にいるのだから。

二人は、お互いの再会を喜び合い、そして。人目も気にせず、キスをした。

そして、二人は再び一つの体に二つの心を持つ神となった。

END

（後書き）

うわあああ！

恥ずかしい！

総執筆時間は二時間足らず（休憩時間は除く）です（汗）

明日第一志望校の受験なのに、何やってるんだろっとな……。

まあいいか（笑）

ところで、本文中で『暴れた』辺りは、具体的じゃないし、大丈夫だよな？

（大丈夫じゃなかったらゴメンナサイ！）

それでは、またの作品で！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7488d/>

---

奇妙な世界のやり直し

2010年10月28日03時59分発行